

<2026 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 - 当日の主な質疑応答>

質問①

医薬品配送業務の DX 化については、現在はケーエスケーの一部エリアのみの取り組みとの認識ですが、他事業会社への展開は考えていますか？

回答① 村井社長

ケーエスケー大阪支店をパイロットとして 2025 年 10 月に導入しました。一定期間のモニタリングを経て、順次他の支店に展開し、今年度中にはすべての支店での稼働を目指します。ケーエスケーエリアでの得意先の評価や反応を踏まえ、バイタルネットでの展開も検討していきたいと考えています。

質問②

伊勢原の物流センターが 2026 年度に稼働されますが、今後どのように活用していくのでしょうか？

回答② 村井社長

現在 3PL で契約している企業だけでなく、新たに複数の企業との契約を進めております。当センターは、包装などの医薬品製造工程の一部にも対応できるよう設計しております。物流業務を請け負うだけの 3PL ではなく、製薬企業のニーズに細かく応えてまいります。また、当社グループで行う製薬事業でも当センターの機能をフルに活用し、効率的かつ高度な物流を実現いたします。

質問③

製薬事業について質問させていただきます。
肺動脈性肺高血圧症(PAH)での適応取得とのことですが、勝算はあるのでしょうか？
また、臨床試験が開始、とのことですが治験はどここの施設で実施されるのでしょうか？

回答③ 鈴木取締役

実はすでにマルツール第二鉄による PAH 患者を対象とした ORION-PH study という臨床試験が行われ、ヨーロッパの権威ある雑誌に掲載されています。

産業医科大学医学部第2内科学講座教授 片岡雅晴先生のコメントにもありますように、新規化合物であるマルツール第二鉄はこれまで困難だった長期的な投与を可能とする鉄剤です。この新薬による PAH 患者を対象とした臨床試験を実施することで、日本発のエビデンスが構築されることが大きく期待されています。

また、治験の施設についてですが、PAH を数多く診療している全国の大学病院をはじめとする専門施設を中心に治験を依頼しています。

<2026 年 3 月期第 2 四半期 決算説明会 - 当日の主な質疑応答>

質問④

おくすりあうんについて、現在の進捗や今後のビジネスの展望について教えてください。

回答④ 鈴木取締役

10 月 6 日の開示でもお知らせしましたとおり、先行導入した宮城県では、専門医や薬局薬剤師、そして患者さんからたいへん多くの好評を得ております。現在のターゲット疾患は IBD ですが、このサービスの内容を知った医療関係者から、他の疾患でもこのサービスを展開してほしいという要望が複数寄せられています。これまで見過ごされていた医療連携の「すき間」を埋めるのに最適なサービスであると自負しておりますので、ぜひ今後の全国展開に期待していただきたいです。